

地域包括ケアシステム (医療と介護の連携) —行政との連携進捗状況—

在宅医連携拠点整備促進事業を終えて



佐野市医師会 小倉医師会通りクリニック 小倉 重人

佐野市医師会では平成27年度から2年間在宅医療連携拠点整備促進事業を行ってきました。今年度からこの事業は在宅医療・介護連携推進事業として佐野市にバトンタッチしましたが多くの分野で医師会が大きく関わっていく必要があります行政と連携しながら遂行していくこととなりました。

今回は2年間の主な事業の成果と今後の予定を報告したいと思います。

1. 地域の医療・介護の資源把握

市内の医療・介護施設に対してアンケート調査を行い収集した情報を検討し市内の364施設の連携ガイドを作成しました。関係各施設に冊子を配布し、佐野市医師会のホームページ上に医療・介護連携マップとして検索システムを公開しました。また佐野市のホームページにもリンクさせました。今後はシステムの管理は医師会で行うこととし随時内容の更新を行うためのアンケート調査は共同で行うこととしております。

2. 多職種連携会議の開催

2回の多職種連携会議を開催しました。連携に関する各施設へのアンケート調査の内容の検討及び結果報告、今後の研修会、講演会の開催及びワーキンググループ設置等について検討しました。また各専門職の代表者が一堂に介しての会議は初めてであり顔の見える連携の第一歩として忌憚のない意見が交わされました。

今年度は新たに佐野市が在宅医療・介護連携推進協議会を発足させ協議会メンバーを選定の上協議会の開催し2つのワーキンググループ (①情報共有シートの作成、②市民のエンディングノートについて) を設置し3回程度の開催を予定しています。

3. 24時間365日在宅医療・介護提供連携体制の構築

佐野市在宅医療ネットワークを医師会内に設置し訪問診療医の不在時の連携システムを構築し運用を開始しました。

現在までこのシステムを通しての連携が数例ありましたが看取り症例はありませんでした。(詳細は昨年在宅医療だよりに記載してあります。)

今年度以降は在宅医療に関しては医師会内でのこのネットワークを継続運用することとし介護と一体

的に供給されるように前述の情報共有シート及びどこでも連絡帳を活用していく予定です。

4. 医療・介護関係者の研修の実施

年2回の研修会を医師会主催で行なってきましたが今後は年3回程度の専門職向けの研修会及び多職種交流会を予定しております。計画立案は行政及び主催する関係団体で行うこととし医師会はこれに協力していくこととなりました。この中で多職種交流会は昨年度も佐野厚生総合病院主催で行われましたが在宅医療を担う医師、歯科医師、薬剤師、訪問看護師、ケアマネジャーだけでなく在宅へ患者を送り出す立場の病院医師、MSD、病棟看護師、退院調整看護師等の参加のもとグループワークをすることによって病院側と我々との在宅医療に関する認識のズレを調整しさらに顔の見える連携を進めていくいい機会であり行政、病院、医師会と一体になり今後も続けていくこととなっております。

5. 地域住民への普及啓発

佐野市医師会では以前から「佐野市民のための講演会」と題して医療に関して市民向けの講演会を年数回行っておりまして。その中で一昨年から行っている市民演劇集団による寸劇を交えた在宅医療の講演会が評判であったため今後も定期的に開催し行政側には協力していただくこととなっております。

6. 在宅医療介護連携に関する相談支援

医師会の在宅医療連携コーディネーターが今年度から佐野市の職員として雇用されることとなり業務の引き継ぎは非常にスムーズに行われ医師会との連携もコーディネーターを通じて良好に行われています。業務は昨年同様ですが医療介護関係機関との連携はどこでも連絡帳での連携を推奨することとなり情報発信及び多職種間の橋渡しをしていただくこととなっております。

佐野市医師会は行政組織と同一単位の組織のため医療行政に関する市との連携は非常にスムーズに行われており関係各課との情報交換会も以前から定期的に行われてお互いに譲歩しながらいい関係が保たれております。今後は地域包括ケアシステムの構築に向けてさらなる連携が必要であり互いに協力しながら市民に喜ばれる医療介護体制を構築していきたいと思っております。